

株式会社クレディセゾン(8253) 2013年度決算発表

2013年度は、カード事業では消費税増税前の駆け込み需要期を捉えたカード利用活性プロモーションの強化を図り、宝飾品や家電など高額商品の取り扱いが伸長したほか、提携小売業を中心としたボーナス一括払いやリボルビング払いの利用促進により、ショッピング取扱高は前期比 8.6%増加し、3兆8,529億円となりました。

ネットビジネスでは、ポイントサイト「永久不滅.com」の利便性向上に加え、ネット業界で有力なベンチャー企業と協業し、行動履歴分析サービス「eMark+Lite」や加盟店への会員送客サービス「セゾンCLO」などを新たに開発し、収益基盤を拡充してまいりました。

さらに、ノンバンクとして事業の成長を目指し、リース事業では、主力販売店でのキャンペーンが堅調に推移し、取引が拡大したことに加え、新規提携販売店への営業強化により、リース取扱高は1,146億円(前期比 8.9%増)と過去最高を更新しました。ファイナンス事業では、信用保証事業において、大手金融機関との新規提携や既存提携先との密接な関係づくりに努め、保証残高は前期末より 16.6%増加し、2,300億円となりました。また、消費税増税前の利用拡大を背景に長期固定金利住宅ローン「フラット35」の残高は前期末より 42.5%増加し、2,186億円と順調に事業基盤を構築しております。

一方、将来に備えた利息返還損失引当金 108億円を繰入れた結果、営業収益 2,475億円(前期比 1.3%増)、営業利益 363億円(同 14.1%減)、経常利益 444億円(同 16.5%減)、当期純利益 255億円(同 22.0%減)となりました。当連結会計年度のセグメント別業績概況は次の通りです。

1. 営業概況

(1) クレジットサービス事業

顧客基盤の拡充では、プレミアムカードやWEBを活用した会員募集の強化とともに、提携小売業店舗と連携した申込みが堅調に進み、253万枚(同 0.7%増)の新規カードを獲得いたしました。ショッピングでは、提携小売企業と協力し、八重洲/日本橋・京都・札幌など、各エリアにおいてカード利用を通じた地域活性に努力してまいりました。これらの結果、ショッピング取扱高は3兆8,529億円(同 8.6%増)となりました。キャッシングでは、適正な与信による利用活性施策に注力した結果、新規利用が増加し、取扱高は2,745億円(同 2.5%増)と着実に回復しており、残高の減少にも歯止めがかかっております。キャッシュレス社会に向けた取り組みでは、新たにスマートフォン決済サービス「Coiney」の導入を通じ、中小事業者のカード加盟店化の促進や、平成25年4月より募集を開始したVisaプリペイドカード「ココカラクラブカード」を307万枚発行しております。一方で、今後の成長基盤づくりに向けた先行投資を行い、積極的な新規カードの獲得やサービスの拡充に取り組みました。また、利息返還損失引当金108億円を繰入れた結果、クレジットサービス事業全体での営業収益は1,896億円(同 0.4%減)、営業利益は147億円(同 39.1%減)となりました。

(2) リース事業

リース事業では、既存の主力販売店を中心に提携先のニーズに合わせて実施したキャンペーンが堅調に推移し、取引が拡大したことに加え、新規提携販売店の増加や厨房機器など取扱商材の拡充により、取扱高は1,072億円(同 8.3%増)となりました。レンタル事業では、省エネ需要に対応したLED照明販売の新規提携先の拡大により、取扱高は74億円(同 18.2%増)となりました。これらの結果、リース事業全体での取扱高は過去最高を更新し1,146億円(同 8.9%増)となりました。

(3)ファイナンス事業

信用保証事業では、新たに地域金融機関 26 先と提携し、提携先数は 368 先に拡大しました。また、提携金融機関と営業・管理両面にわたり密接な連携を行った結果、保証残高 2,300 億円(前期末比 16.6%増)となりました。また、長期固定金利住宅ローン「フラット 35」では、消費税増税前の利用拡大を背景に、併せローン「フラット 35PLUS」併用による 10 割融資の継続や、提携先との連携強化を図った結果、実行金額は 759 億円(前期比 57.6%増)、貸出残高は 2,186 億円(同 42.5%増)と大幅に増加しました。また、「セゾンの資産形成ローン」では、優良な提携先との連携強化により、実行金額 278 億円、貸出残高は 319 億円と順調に拡大しており、ノンバンクとしての事業基盤を着実に構築しております。さらに債権管理の徹底にも努めた結果、ファイナンス事業全体の営業収益は 191 億円(同 10.3%増)、営業利益は 100 億円(同 12.1%増)となりました。

(4)不動産関連事業

連結子会社(株)アトリウムにおいては、不動産市況の回復や積極的な営業活動により、順調に推移しております。また、整理事業における開発案件の早期資産圧縮にも取り組んでおります。

2. 経常利益・純利益概況

良質債権の拡大に向けてリスクマネジメントを徹底した一方、今後の成長基盤づくりに向けた新規カード獲得やカード利用促進に伴う先行投資と共に将来に備えた利息返還損失引当金 108 億円を繰入れた結果、営業費用は 2,112 億円(同 4.5%増)、営業利益 363 億円(同 14.1%減)、経常利益 444 億円(同 16.5%減)となりました。以上の結果、当期純利益は 255 億円(同 22.0%減)となりました。

3. 次期の見通し

2014 年度通期の個別業績予想は、営業収益 2,125 億円(前期比 3.2%増)、経常利益 340 億円(同 2.5%減)、当期純利益は 175 億円(同 6.1%減)を予想しております。

連結の業績は、営業収益 2,530 億円(同 2.2%増)、経常利益 400 億円(同 10.0%減)、当期純利益は 230 億円(同 10.0%減)を予想しております。

また、次期の配当に関しては、当期の配当予定と同額の 1 株 30 円を予想しております。

以上

(ご参考) 2013 年度の単体業績

(1)新規カード開拓枚数	:	332 万枚	(前期比 1.8%減)
(2)新規カード発行枚数	:	253 万枚	(前期比 0.7%増)
(3)カード総会員数	:	2,475 万人	(前期末からの純減数 6 万人)
(4)稼働会員数	:	1,420 万人	(前期末からの純増数 58 万人)
(5)稼働率	:	58.1%	(前期末から 2.5%増)
(6)カードショッピング取扱高	:	3 兆 8,529 億円	(前期比 8.6%増)
(7)カードショッピングリボ残高	:	2,678 億円	(前期比 2.9%増)
(8)カードキャッシング取扱高	:	2,640 億円	(前期比 1.5%増)
(9)カードキャッシング残高	:	2,187 億円	(前期末比 8.0%減)
(10)営業収益	:	2,058 億円	(前期比 0.9%増)
(11)経常利益	:	348 億円	(前期比 16.0%減)
(12)当期純利益	:	186 億円	(前期比 22.8%減)